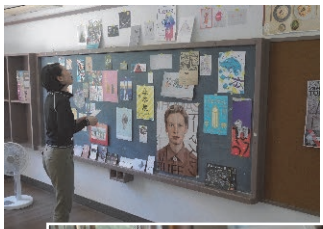
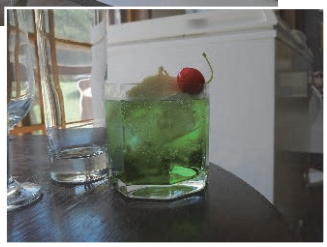
集落支援通信36
地域におじゃまします。

全国のチラシ展

8月12日（土）と13日（日）の2日間、あまマーレで『全国のチラシ展』を開きました。企画はあまマーレ、講師は辰巳雄基さんです。約1年の歳月をかけて日本一周した辰巳さんは、『ジャパニーズチップ（飲食店のもてなしや、食べものへの感謝の気持ちを箸袋で伝えるというアートプロジェクト）』を通してコミュニケーションの新しい形を発信しています。その『ジャパニーズチップ』を多くの人に知ってもらうため、また協力店（主に箸袋を使う飲食店）を募るために、日本一周の旅に出られていました。今回あまマーレの一室を使って展示されたチラシ（※上の写真が展示の様子です）は、その旅路で集めたものです。

当日は、イベント目的の方、帰省客など、来館される皆さんの理由はそれぞれでしたが、展示形式だったので、誰がいつ来ても楽しめる内容でした。気に入ったチラシがあれば一人5枚まで持ち帰ることもでき、長い時間をかけてお気に入りの5枚を厳選されている方もいました。





別室ではチラシ展示のほかにも、クリームソーダが飲めたり、辰巳さんの日本一周の話を聞くことができたり、千葉梢さんによる全国のチラシを使った「ぺたぺたコラージュワークショップ」（※12日のみ）を開いたりしていました。ワークショップでも、ご家族での参加だったり友達と一緒に遊びに来たりと、幅広い年代の方に楽しんでいただき、世代交流が盛んに行われたイベントになりました。

小学生が作ったコラージュ作品

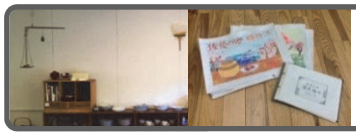
子どもダッシュ村

小中学生対象の中央公民館事業「子どもダッシュ村」を、今年度は集落支援員が企画しています。「自然体験や勤労体験を通して主体性やふるさとを愛する心、思いやりの心を育む」という目的の中で、イチゴ狩りや田植え、泳ぎや潜り方を覚える海遊びなどの企画を実施してきました。今年度は参加率が上がり、町内の6割以上の小学生が一度はダッシュ村に参加しています。

ダッシュ村では先述したような活動の他に、地域の方に昔の遊びやグラウンドゴルフを教えていただくといった、子供たちと地域が交流する企画も大切にしています。

お住まいの地区で「ダッシュ村の子供たちに来てほしい！」等のご要望がありましたら、ぜひ集落支援員にお声掛けください。

昔遊びの様子



日々の集落支援員の活動を、インターネットで発信！
Facebookページ更新中！
www.facebook.com/ama14chiku

あまマーレのホームページができました！
貸切予約やイベント情報はこちらから
http://ama-mare.com/

教育だより【海士町教育委員会】

第21回 アドベンチャーキャンプinあま

【期間】7月27日(木)～8月1日(火)

今回のアドベンチャーキャンプのテーマは「チャレンジ」。「海で泳ぎ、潜り、海での遊びを堪能できるようになってこそ、海士の子」ということで、海での活動を工夫しました。泳力のレベルごとに活動を分けて、「チャレンジ・とびこみ」「チャレンジ・あまさんプロジェクト」を計画しました。

1つ目のチャレンジは、高石漁港の2段の防波堤から元気よくジャンプしていく**「チャレンジ・とびこみ」**。中には頭からとびこんだり、「どうやって回転するの?」と尋ねてきたり、上段から数人で手をつないでとびこんだりと思い切り挑戦を楽しんでいました。今回は防波堤に梯子を取り付けたので、何度も何度も挑戦する子どももいました。

2つ目のチャレンジは、海に潜ってニイナやサザエ、アワビ採取に挑戦する**「チャレンジ・あまさんプロジェクト」**。当日は風や波が強く、磯際で泳いだり潜ったりすることが困難な状況でした。波にもまれて岩場に体を打ち付けられたりもしたようですが、果敢に何度も挑戦していました。そういう状況でどのように海に挑めばよいのかという知識・判断は、少しずつ大人から学んでいかなければいけないことも実感したようです。

その間、泳力初級者の子ども達は、とにかく泳げるようになるために浅場で練習を行いました。海での事故などから自分の命を守るためにも、海での活動の楽しさを広げていくためにも根気強くチャレンジを行いました。努力の結果、ほとんどの挑戦者が中級・上級レベルの到達度をクリアすることができました。

また、アドキャン3回目の挑戦者たちは「チャレンジ・サバイバル松島」に出発しました。今回の松島挑戦者は2名でした。到着後、すぐに基地をつくり、松島近海探索に出かけ、自分たちでサバイバル料理を作って過ごしました。松島に1泊して帰ってきた2人を参加者全員で出迎えましたが、2人とも「また来年も行きたい!」と笑顔で話していました。自然の中での生活を苦にせず、むしろ満喫していたところにたくましさを感じました。

自分たちで立てたテントで共に過ごし、自分たちで火をおこして料理を作って食べた5泊6日間。今回は海での活動が多く、子ども達は海での楽しみ方を増やすことができたように思います。一方では、慣れない生活に抵抗を感じ、疲れがピークとなっていた子どももいました。「早く家に帰りたい」という子どものつぶやきは、家に帰るとご飯があるありがたみや家族の大切さの裏返しでもあります。子ども達が感じた楽しさや苦しさが思い出となって、ほんの少しでも日常生活へのよい変化となって表れてくれることを願っています。また、「来年も行ってみたいな」という気持ちが生まれれば、新たなチャレンジ精神をもって参加してもらいたいです。今後もアドキャンスタッフ一同で、貴重な体験に出会うことができるようサポートしていきたいと思います。

(地域共育課　山下裕次)